

平成14年繭生産統計

【調査結果の概要】

1 掃立卵量

調査県の掃立卵量は2万6,100箱で、前年に比べて3,500箱（12%）減少した。

これを蚕期別にみると、春蚕が9,100箱で前年に比べて1,200箱（11%）、初秋蚕が7,300箱で前年に比べて900箱（11%）、晩秋蚕が9,700箱で前年に比べて1,300箱（12%）、それぞれ減少した。

2 収繭量

調査県の収繭量は866.1tで、前年に比べて126.4t（13%）減少した。

これを蚕期別にみると、春蚕が322.6tで前年に比べて50.7t（14%）、初秋蚕が229.2tで前年に比べて36.2t（14%）、晩秋蚕が314.3tで前年に比べて39.5t（11%）、それぞれ減少した。

なお、蚕期別の構成割合は、春蚕が37%で最も高く、次いで晩秋蚕が36%、初秋蚕が27%の順となっている。

また、調査県別に見ると、群馬県が400.6t（46%）、福島県が83.1t（10%）の順となっている。

図 蚕期別・県別収繭量（調査県）

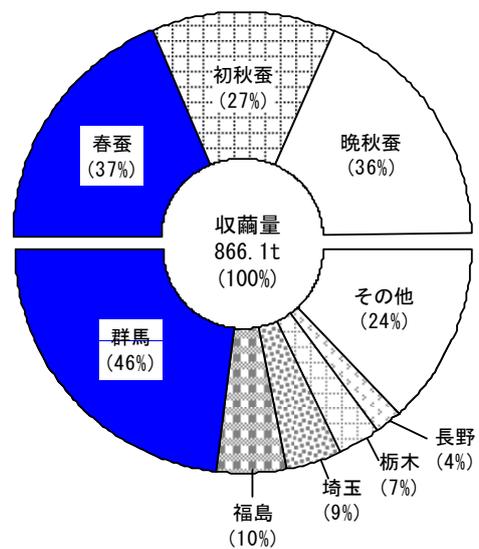


表 掃立卵量及び収繭量（調査県）

単位 { 掃立卵量 : 100箱
収繭量 : t
前年対比 : %

蚕期	掃立卵量	収繭量	1箱当たり 収繭量	前年対比		
				掃立卵量	収繭量	1箱当たり 収繭量
年間計	261	866.1	33.2 ^{kg}	88	87	99
春蚕	91	322.6	35.3	89	86	98
初秋蚕	73	229.2	31.5	89	86	98
晩秋蚕	97	314.3	32.4	88	89	101